

特集

「和紙 ～日本全国の和紙を知れば、紙ものづくりの幅がグンと広がる」

和紙といえば、独特の味わいある風合いが美しく、日本伝統の紙として好きな人はかなり多いだろう。でも、洋紙に比べて使われる機会はかなり少ない。そこで本特集では、日本全国でつくられている和紙の紹介、それをうまく使っている和紙作品も多数掲載。また比較的小ロットでオリジナル和紙や透かし和紙がつかれることも見逃せない。さらに、洋紙に比べ印刷加工が難しいといわれる和紙の印刷加工のポイントや、和紙印刷加工が得意な会社紹介と、和紙を使った印刷物をつくるためのノウハウを余すところなく紹介する、和紙づくしの1冊です！

現在の出版物ではほぼあり得ない仕様！ 表紙も本文も、すべて和紙を使用！

今号は、本誌初の「和紙特集」。ならば本誌自体もすべて和紙で作らなければ！ということで、表紙も本文もすべて和紙で作りました。表紙は、筆で書いた文字を、麻の葉模様の落水紙を貼合した和紙にオフセット印刷。本文用紙にも数種類の和紙を使用しており、使っている和紙名はすべてノンブル横に記載していますので、本誌自体を和紙見本帳、印刷サンプルとしてご覧いただけます。



↑
全部和紙だから
ひきだし史上最軽
重さ約 **400g!**



ちなみに
27号は
約 **1600g**



28号は
約 **700g**

オリジナル透かし和紙や、編集部おすすめの和紙など いろいろな和紙とその印刷加工を一挙紹介&実物綴じ込み多数!

伝統的な手漉き和紙の工房から、仕事で使える機械抄き和紙の製紙現場まで取材。世界一薄い紙が作られている土佐、本誌オリジナルの透かし和紙を作ってもらいに美濃や越前など、和紙の三大産地を取材して記事で取り上げるとともに、できる限り多くの実物見本を綴じ込みました。スタンダードな白い和紙から色とりどりの和紙、透けている和紙、キラキラした繊維や色紙が混ざっている和紙、木の皮などを混ぜ込んだ素朴な風合いの和紙など、さまざまな和紙の実物に触れることができます。活版印刷やオフセット印刷など和紙への印刷サンプルも綴じ込まれています。



▲和紙の工場取材レポートが充実!

連載記事も盛りだくさん!

編集部注目PICK UP! 新しい微細エンボス紙 「サガンGA」実物綴じ込み

好みのエンボス紙を少量からイージーオーダーできる竹尾の「T-EOS(ティ奥斯)シリーズが11月にリニューアルするのに先駆けて、微細なエンボスが上品な新しいエンボス紙「サガン GA」が発売されました。今号では、「サガン GA」の特徴の一つである高彩度の濃色のラインナップから3色の紙の実物を綴じ込みました。その深い色合いとテクスチャーを、実際に見て触って、感じることができます。



●本づくりの匠たち [小ぶりの機械たちが大活躍! 封筒からステーションナリーまで]

フロッキー印刷の機械と名久井直子さん

ブックデザイナーの名久井直子さんとともに、本づくりに関わるさまざまな現場を訪ねる連載。今回は、封筒を中心にオリジナルの紙製品を作っているメーカー・羽車の工場を訪ねました。活版、箔押し、エンボス、口ウ引き、ダイカット、バーコ印刷などなど、多彩な印刷加工を行なっている現場では、他ではあまり見ないような機械が活躍していました。



●アノニマスデザイン史

[デザインの沿道 檜垣紀六×大島依提亜]

DOMMUNE と本誌が連動したデザイン番組「アノニマスデザイン史」。今回は、50年以上にわたり映画の宣伝美術を手がけている檜垣紀六さんと、そのデザインに知らずと影響を受けて育ったというデザイナーの大島依提亜さんをゲストに、その創作の根源について語っていただきました。



●もじもじ探偵団 [電光掲示板の文字]

街で見かけた気になる文字を毎回調査する「もじもじ探偵団」。今回のテーマは、電光掲示板の文字です。ビットマップフォント、ドットフォントと呼ばれるこれらの文字がどうやって作られているのか。制作現場を訪ね、そのデザインのコツなどをレポートします。



●もじのひと [楠本まきインタビュー／聞き手 正木香子]

『KISSxxxx』『Kの葬列』など、独自の世界観で熱狂的なファンをもつ、マンガ家の楠本まきさん。作品に登場するすべての文字・書体を自ら選ぶ「もじのひと」でもあります。異色のクリエイターに、文字と絵を綴れ織る、その創作スタイルについて聞きました。